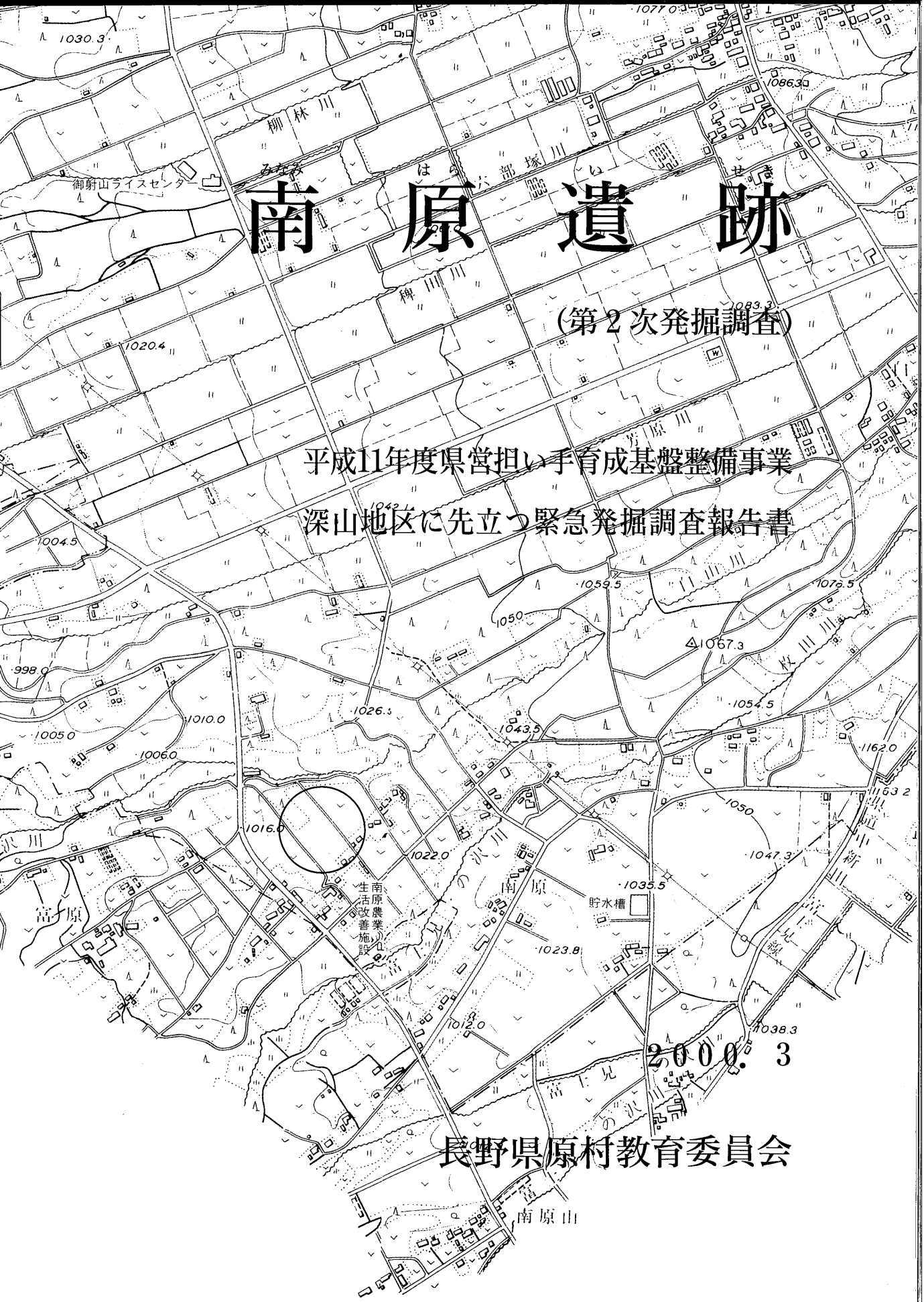



# 南原遺跡

## （第２次発掘調査）

平成11年度県営担い手育成基盤整備事業

深山地区に先立つ緊急発掘調査報告書

2000. 3

長野県原村教育委員会

表紙地図10,000分の１　○印が南原遺跡

# 序

このたび平成11年度に発掘調査を実施した南原遺跡の報告書を刊行することとなりました。

発掘調査は、県営担い手育成基盤整備事業深山地区の土取りに先立って、諏訪地方事務所の委託と、国庫および県費から補助金交付を受けて原村教育委員会が実施したものであります。

調査の結果、村内では数少ない縄文時代前期の小竪穴と集石を発見した小規模遺跡でありました。原村における縄文時代前期の遺跡は、国史跡の阿久遺跡があまりにも著名ですが、本調査はその阿久遺跡の性格を究明していく上での一資料になるものと思っています。

このたびの発掘にあたり、諏訪地方事務所土地改良課の方々のご配慮、長野県教育委員会のご指導、長野県埋蔵文化財センターをはじめ発掘にかかわる多くの皆様のご協力に深甚なる謝意を表する次第であります。

発掘現場では、長野県埋蔵文化財センター　調査研究員　櫻井秀雄氏の多大のご助力により、失われていく貴重な資料を記録に残すことができました。また、発掘調査報告書刊行にいたる過程において、お世話いただいた関係各位にたいし厚くお礼申しあげます。

平成12年３月

原村教育委員会
教育長　大館　宏

# 例　　言

1　本報告は「平成11年度県営担い手育成基盤整備事業深山地区」に先立って実施した、長野県諏訪郡原村南原に所在する南原遺跡の緊急発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、諏訪地方事務所の委託と、国庫および県費から発掘調査費補助金交付をうけた原村教育委員会が、平成11年10月21日から平成12年１月７日にかけて実施した。整理作業は、平成12年１月17日から３月24日まで行った。

3　現場での遺構測量は株式会社写真測図研究所に委託した。遺構の一部については平出一治と櫻井秀雄の指導のもと、小林りえが記録した。写真撮影は平出と櫻井が行った。

4　本書の執筆は平出と櫻井が話し合いのもとに行った。石器の実測は株式会社アルカに委託した。

5　本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。
　なお、本調査関係の資料には、96の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、原明芳・川崎保の両氏をはじめ多くの方々から御指導・御助言をいただいた。厚く御礼申し上げる次第である。

# 目　　次

例　言・目　次
I　発掘調査の経過 …… 1
　1　発掘調査に至る経過 …… 1
　2　調査組織 …… 1
　3　発掘調査の経過（調査日誌抄） …… 2
II　調査方法 …… 4
　1　位置と環境 …… 4
　2　基準杭の設定・土層・調査の方法 …… 4
III　発見した遺構と遺物 …… 5
　1　小竪穴 …… 5
　2　集石 …… 8
　3　遺構外出土の遺物 …… 8
IV　結　語 …… 10
引用参考文献・報告書抄録

# Ⅰ　発掘調査の経過

## 1　発掘調査に至る経過

平成６年度から実施されている「県営担い手育成基盤整備事業深山地区」も６年目をむかえたが、県営担い手育成基盤整備事業深山地区は、地域全域にわたって耕作土が薄く礫が多いことから客土が必要であり、事業当初から土取り場が２～３予定されていた。平成８年度には、土取りに先立つ久保地尾根遺跡第６次緊急発掘調査を実施しているが、客土の不足は否めず、南原遺跡も土取り場として候補にあげられた。そのため平成８年11月11日に長野県教育委員会文化財保護課（平成11年４月より文化財・生涯学習課）、諏訪地方事務所土地改良課、原村役場農林課、原村教育委員会の４者による「平成９年度県営担い手育成基盤整備事業深山地区にかかわる埋蔵文化財保護協議」で、協議され遺跡は現状のまま保存していくのが最も望ましいことであるが、農地の将来のためには客土は必要なことであり、事業地区外の遺跡破壊は痛手であるが、「記録保存やむなき」との考えに落ち着き、記録保存をはかる方向で同意をみることができた。しかしながら、本遺跡は有頭石棒をはじめ土器や石器の発見を聞くものの遺跡の範囲および性格が一切不明なため、確認調査の必要性があり、その範囲確認調査を平成 9年度に実施した。その結果、少量の土器片と小竪穴と思われる落ち込み２基が認められ、7200㎡が調査対象範囲であることが判明した。これを受けて平成10年10月27日及び平成11年１月27日に上記の４者による「平成11年度県営担い手育成基盤整備事業深山地区にかかわる埋蔵文化財保護協議」を行い、平成11年度に土取りに先立つ緊急発掘調査を実施することが決定した。発掘調査は平成11年10月21日から平成12年１月７日にわたって実施した。なお、平成11年10月25日にはやはり４者で、土取りの必要性の有無、調査日程等について最終的な協議を行っている。

## 2　調　査　組　織

**南原遺跡第２次発掘調査団名簿**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 団　　長 | 大舘　宏（原村教育委員会教育長） | | | | |
| 調査担当者 | 平出　一治 | | | | |
| 調　査　員 | 櫻井　秀雄 | | | | |
| 調査参加者 | 発掘作業 | 池　冬樹 | 吉川　幸子 | 久根　種則 | 小島久美子 |
| | | 小島　政雄 | 小林　りえ | 小松　弘 | 五味　元 |
| | | 五味八代江 | 清水　太助 | 清水　正進 | 進藤　郁代 |

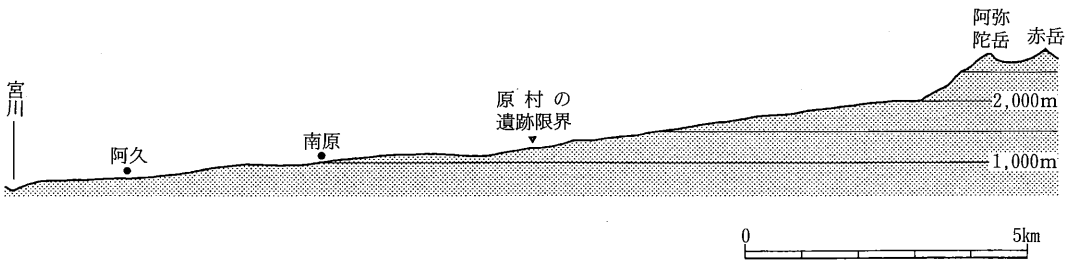
田中　初一　　津金喜美子　　西沢　寛人　　日達今朝江
横内かおり

整理作業　池　　冬樹　　小林　りえ　　清水　正進　　進藤　郁代
津金喜美子　　横内かおり

事　務　局　　原村教育委員会　　小林　銹晃（教育次長）　　津金　一臣（庶務係長）
戸田　美鈴　　平出　一治（文化財係長）　　中村　恵子
櫻井　秀雄（県派遣主事）

## 3　発掘調査の経過（調査日誌抄）

平成11年10月21日　発掘調査の準備をはじめる。
26日　重機による表土剝ぎをはじめる。
11月29日　重機による表土剝ぎを終了する。
12月10日　遺構の検出作業をはじめる。
22日　小竪穴２基を確認する。
27日　集石と思われる遺構を確認する。
28日　仕事納め、小竪穴は４基となる。
平成12年１月５日　調査を再開する。
６日　小竪穴、集石の精査を行う。小竪穴は５基を数える。
７日　片付けを行い調査を終了する。

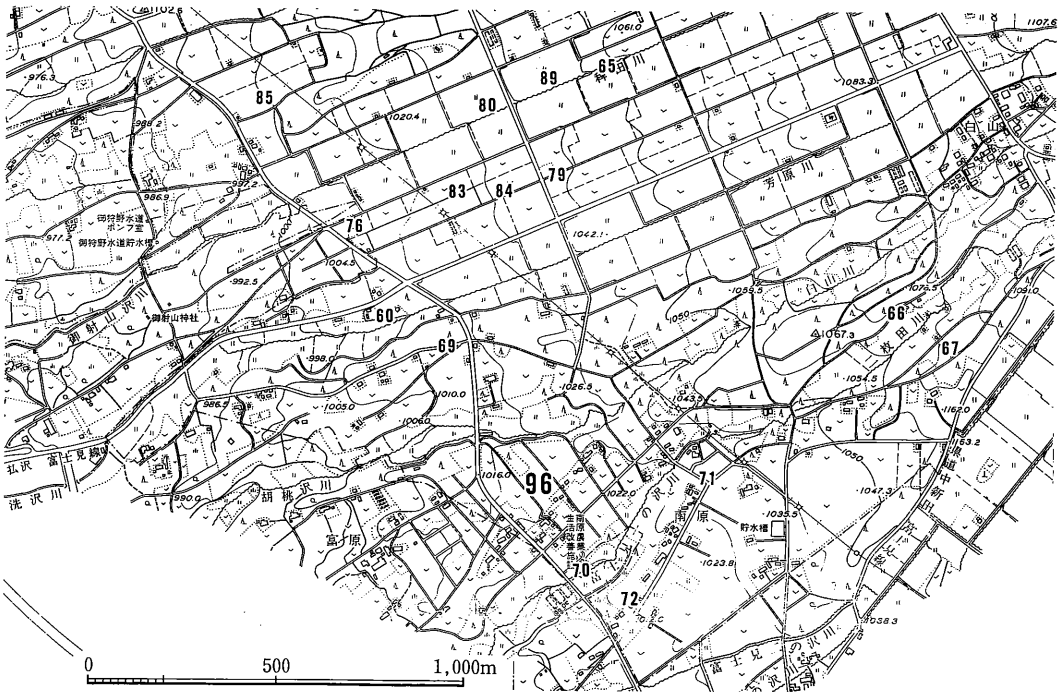



第１図　原村域の地形断面模式図（宮川－南原遺跡－赤岳ライン）

表１　南原遺跡と付近の遺跡一覧

○は遺物発見　◎は住居址発見

| 番号 | 遺跡名 | 旧石器 | 縄文 | | | | | | 弥生 | 古墳 | 奈良 | 平安 | 中世 | 近世 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 草 | 早 | 前 | 中 | 後 | 晩 | | | | | | | |
| 60 | 浅間沢 | | | ○ | | ○ | | | | | | | | | |
| 65 | 梨の木沢 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | ◎ | | ○ | 平成元年度発掘調査　消滅 |
| 66 | 追分沢 | | | | | ○ | ○ | | | | | ○ | | | 平成10年度発掘調査 |
| 67 | 二枚田 | | | | | ◎ | | | ○ | | | | | | 平成10年度発掘調査　一部破壊<br>有頭石棒 |
| 69 | 赤羽 | | | | | | | | | | | | | | 石鏃　昭和60年一部破壊 |
| 70 | 南原西 | | | ○ | | ◎ | | | | | | | | | 昭和59年一部破壊 |
| 71 | 南原東 | | | | | ○ | | | | | | ○ | | | 平成４年度立ち会い調査 |
| 72 | 徳久利 | ○ | | | | ◎ | ◎ | | | | | ○ | | | 昭和25～27・59・61・平成５年度発掘調査 |
| 76 | 御射山 | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | 昭和59・60・平成４年度発掘調査 |
| 79 | 中御射山東 | | | | | | ○ | | | | | | | | 昭和59年度発掘調査　消滅 |
| 80 | 御射山沢 | | | | | ○ | ○ | | | | | | ○ | | 昭和59年度発掘調査 |
| 83 | 花表原 | | | | | | ○ | | | | | | | | 昭和59年度発掘調査　消滅 |
| 84 | 中御射山西 | | | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | | 昭和59年度発掘調査　消滅 |
| 85 | 箕手久保 | | | | | ○ | ○ | | | | | | ○ | | 昭和61年度発掘調査　消滅 |
| 89 | 梨の木沢西 | | | | | | | | | | | | ○ | | 平成元年度発掘調査 |
| **96** | **南原** | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | **平成９・11年度発掘調査** |




第２図　南原遺跡の位置と付近の遺跡（1/20,000）

# III 調 査 方 法

## 1 位置と環境

南原遺跡（原村遺跡番号96）は、長野県諏訪郡原村南原区の集落内に位置する。標高は1020m前後を計り、当地方においては遺跡の希薄地域である。なお、原村における遺跡の高度限界は1200m前後のラインである。

このあたりは八ケ岳西麓に位置し、東西に細長く発達した大小様々な尾根がみられる。その一つである白山川と二枚田川（富士見一の沢川）にはさまれた尾根上から南斜面が遺跡であるが、村内では最も尾根幅は広く、広いところでは180mを計る。地目は普通畑であるが、南斜面は住宅地として利用されている。

本遺跡は「発掘調査に至る経過」で触れたように、有頭石棒をはじめ土器や石器の発見を聞くが、遺跡の範囲および性格などは一切不明なままであった。平成９年度に範囲確認調査を実施したことにより、当地方においては比較的小規模な縄文時代の遺跡であることが分かってきている。

付近には、第１図と表１に示したように縄文時代早期・中期・後期を中心とした遺跡が分布している。それらの遺跡は昭和59年度に行った分布調査の折に発見したものが多く、すでに発掘調査を実施している遺跡は、比較的小規模な遺物散布地が多いようである。

## 2 基準杭の設定・土層・調査の方法

本調査では国家座標第Ⅷ系にあわせた測量基準杭２本を設定し、これをもとに小竪穴の断面測量等を行った。なお、平面図等の遺構測量は株式会社写真測図研究所に委託した。

調査地区の土層のおおまかな観察結果は次のとおりである。第Ⅰ層は畑の黒色土（耕作土）で厚さは15～20cm。第Ⅱ層は黒褐色土で第Ⅰ層よりしまり18～20cm。第Ⅲ層は褐色土で10～16cmを計る。第Ⅳ層がソフトローム層である。

調査は、範囲確認調査で得た知見に従い第Ⅲ層までを重機で剝ぎ、その後、人力で遺構検出作業に努め、第Ⅳ層上面で遺構を確認している。しかし、霜柱が立つなど調査時期の関係で良い状態ではなかった。また、範囲確認調査で確認していた落ち込みを再検出し、精査したところ、ごく新しいビンが埋められていたため、新しい攪乱穴とした。これ以外にも精査の結果ゴミ捨て穴が数個あった。

遺構に伴わない遺物の取上げについては、その数が少なかったこともあり特に地区は設ていない。なお、調査面積は6,184m²である。

第３図　南原遺跡発掘区域図・地形図（1/2,000）

# Ⅲ　発見した遺構と遺物

## １　小　竪　穴

**小竪穴１**（第４図、第５図）

調査区の北東隅近くに位置する。平面形は136×135cmのやや不整な円形を呈し、深さは50cmを計る。埋土は７層でその埋没は不規則であり、人為的に埋められたものかもしれない。

遺物は土器があり、同個体と思われる破片14点が出土した。うち３点を図示した（第５図２

～4)。繊維を含んでおり、縄文時代前期前半期の中越式にみられる粗製土器と思われる。2は無文、3は口唇部に刻文が施されている。4は底部に近い下胴部で尖底になりそうである。

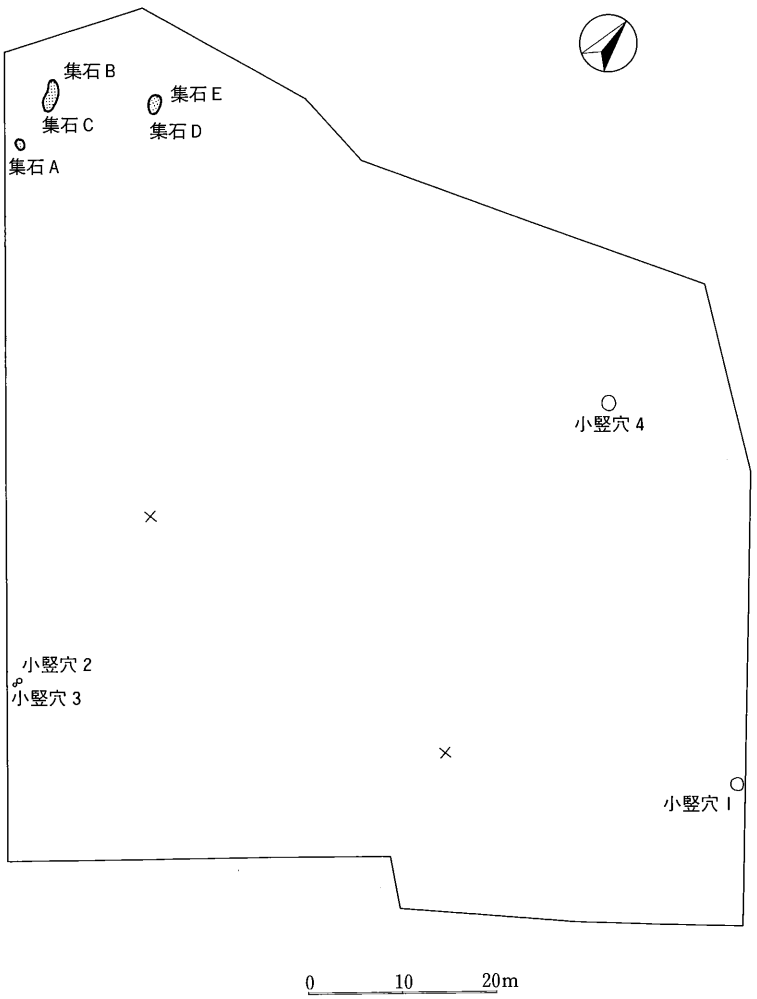
帰属時期は、年代の指標となる伴出土器から前期前半の中越期であるが、その性格等は不明である。

**小竪穴2**（第4図、第5図）

調査区の南側に位置し、小竪穴3と近接している。平面形は43×34cmの楕円形を呈し、深さは12cmを計る。埋土は単層である。

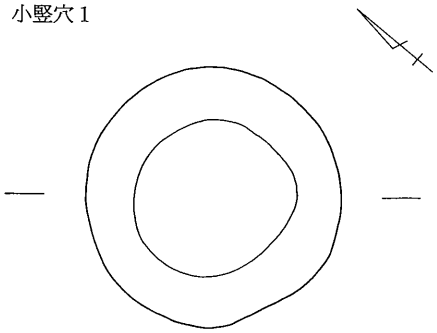
遺物は土器があるが1点（第5図5）と少ない。ナデ調整が施された無文土器で繊維を含んでいる。前期前半期の中越式にみられる粗製土器と思われ、小竪穴1出土土器と同様である。

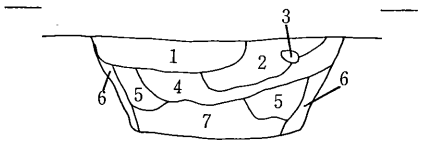
帰属時期は、伴出した土器からみて前期前半の中越期であるが、その性格等は不明である。




第4図　南原遺跡遺構位置図（1/800）

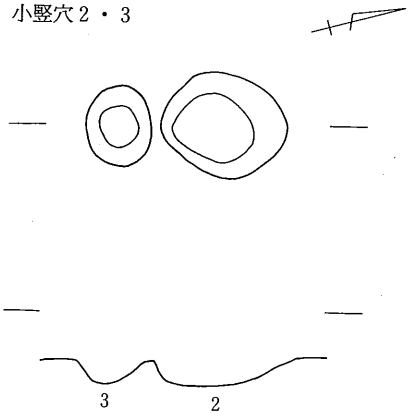
小竪穴１






1. 暗褐色土
2. 暗黄褐色土
3. 暗黄褐色土、もろい
4. 黒褐色土
5. ローム粒を多く含む黒褐色土、もろい
6. ローム土の崩落土か？
7. 黒色土、非常にしまりよし

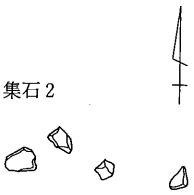
小竪穴２・３



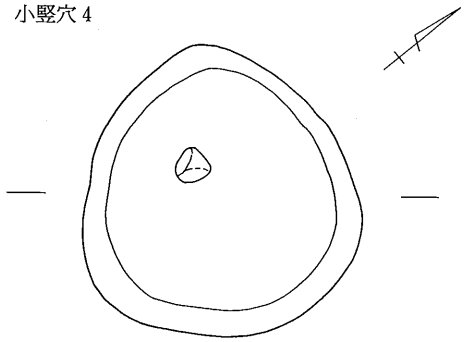

黒褐色土、もろい

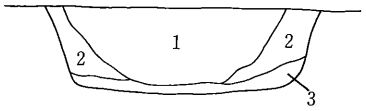
集石１

集石２



小竪穴４






1. 黒褐色土、しまりよし
2. ローム土を含む黒褐色土
   (ロームブロック状)
3. もろい暗褐色土

集石５

集石３

集石４

0　1 m

第５図　小竪穴・集石実測図 (1/40)

**小竪穴 3**（第 4 図）

調査区の南側に位置し、小竪穴 2 と近接している。平面形は57×67cmの不整楕円形を呈し、深さは16cmを計る。埋土は単層である。

遺物の発見は皆無で、帰属時期および性格等は不明である。

**小竪穴 4**（第 4 図）

調査区の北側に位置し、平成 9 年度の範囲確認調査の際に確認した落ち込みが本址で、平面形は150×150cmの三角形とも思える不整円形を呈し、深さは46cmを計る。埋土は自然埋没と考えられるもので 3 層に大別できる。

遺物の発見は皆無で、帰属時期および性格等は不明である。

## 2　集　　石

**集石 1 から集石 5**（第 4 図）

本調査において拳大から人頭大の自然礫がある程度まとまって認められたものを便宜的に集石とし精査を進めたが、いま一つ明確にすることはできなかった。それらは調査区の西側に集中し、集石 1 から集石 5 の 5 基を認めた。

集石と呼んだが礫はあまりにも少なく、集石 1 は 5 点、集石 2 は 4 点、集石 3 は 3 点、集石 4 は 2 点、集石 5 は 1 点である。集石の下層に掘り込みはいずれも認められなかった。したがって全てソフトローム上面に構築されたものである上に、5 基の集石は極めて近接していることから、何らかのつながりを有していたものと考えることができよう。

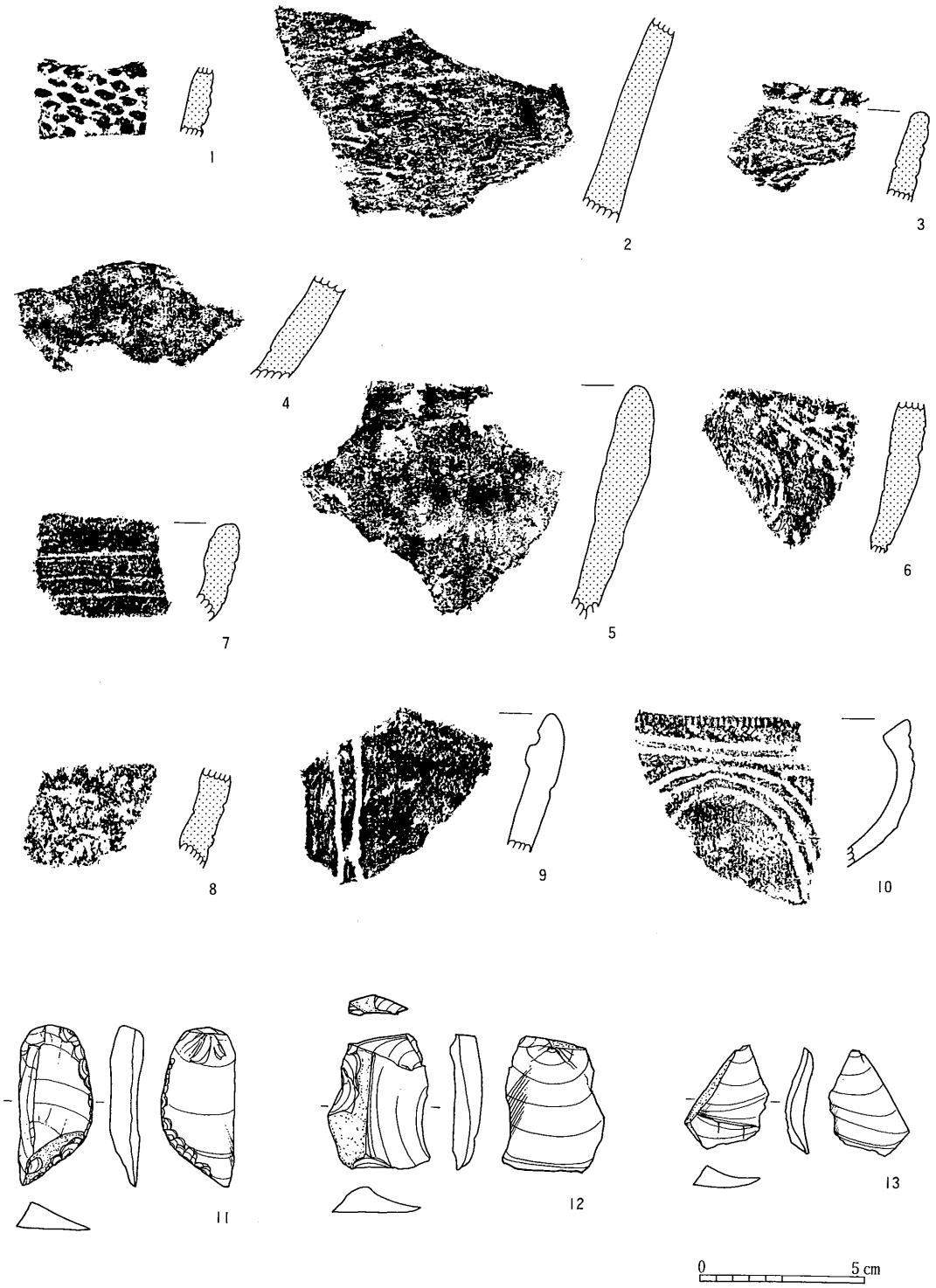
遺物は 5 基のいずれからも全く出土しなかったため、帰属時期をはじめその性格等は一切不明である。

## 3　遺構外出土の遺物

**土　　器**

発見した土器は全て縄文土器の破片で、早期 1 点、前期21点、後期 4 点と少なかったが、早期 1 点、前期 3 点、後期 2 点をそれぞれ図示した。おおまかな説明を加えてみたい。

第 5 図 1 は早期の楕円押型文土器で、繊維を含んでいる。6 ～ 8 は前期前半期の中越式にみられる粗製土器で、いずれも繊維を含んでいる。6 は半載竹管による連続刺突と櫛歯状の条線を施している。7 は横方向に繊細な沈線がみられる。9 ・10は後期の堀之内式土器で、9 は波状口縁になろう。




第6図　土器拓影図・石器実測図 (1/2)

### 石　　器

発見した石器は3点と少なくいずれも図示した。第5図11はスクレイパー、12・13は剝片である。

# Ⅳ 結　　語

本調査は平成9年度に実施した範囲確認調査の結果を踏まえての発掘調査であった。確認調査で発見した遺構と遺物は少なかったが、今回も同様で検出した遺構は、小竪穴4基と集石5基だけである。この事実が本遺跡の性格を物語っているが、広範囲におよぶ6,184㎡を調査しているにもかかわらず、住居址の存在が認められなかったことは生活の場であったとは考えにくい。

土器を伴出した小竪穴2基は、年代の指標となる伴出土器から前期前半に帰属するものであるが、土器は破片ばかりであった上にその数は少なく性格について言及することは難しい。また、遺構外からの発見遺物は、縄文時代早期・前期・後期におよんでいたが、やはりその数は極めて少なく、小竪穴をはじめ集石の性格を物語ることはできないようであるが、小竪穴の発見は注目されよう。それは縄文前期の遺跡を新たに確認できたことであり、国史跡阿久遺跡を取り巻く前期縄文遺跡群の一つであることは紛れもない事実で、今後の縄文時代研究への一資料になれば幸いである。

最後に、関係者各位ならびに寒さの厳しい1月まで発掘調査にたずさわった方々に厚く御礼申し上げる次第である。

### 引用参考文献

1985 07　原村役場『原村誌　上巻』

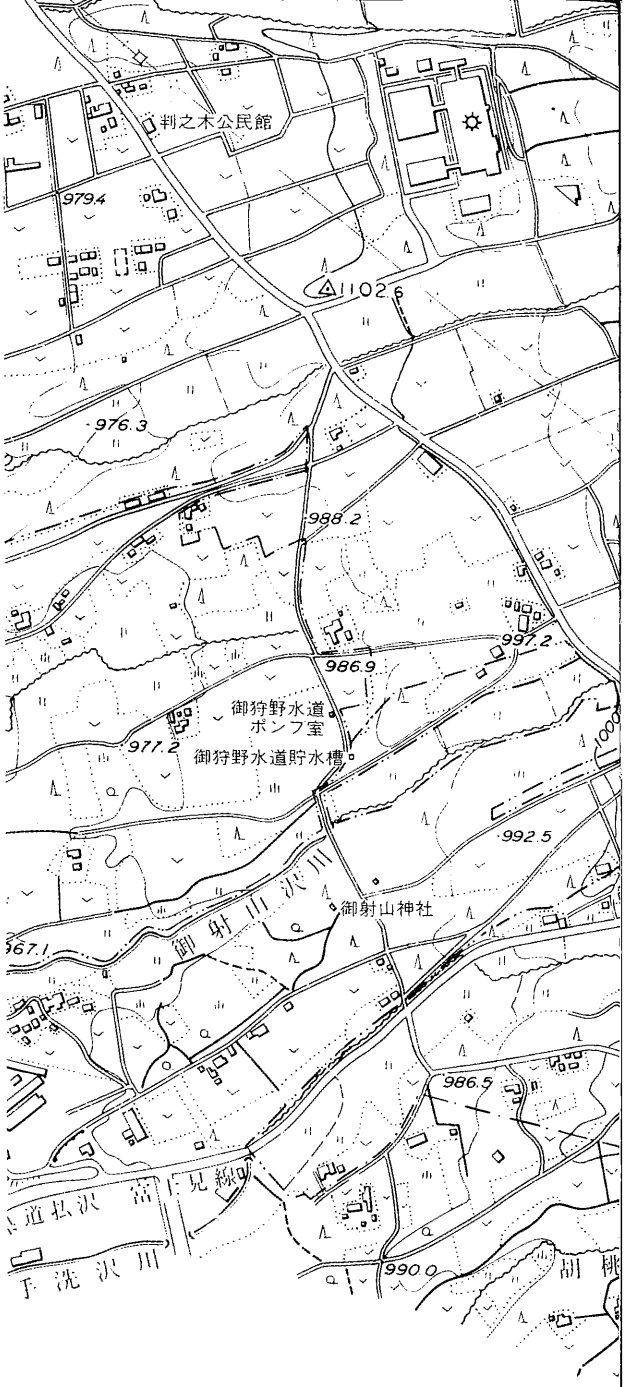
1998 03　原村教育委員会『南原遺跡　平成9年度県営担い手育成基盤整備事業深山地区に伴う遺跡の範囲確認調査報告書』

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | みなみはらいせき |
| 書名 | 南原遺跡（第2次発掘調査） |
| 副書名 | 平成11年度県営担い手育成基盤整備事業深山地区に先立つ緊急発掘調査報告書 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 原村の埋蔵文化財 |
| シリーズ番号 | 53 |
| 編著者名 | 平出　一治 |
| 編集機関 | 原村教育委員会 |
| 所在地 | 〒391-0192　長野県諏訪郡原村12080　☎ 0266-79-2111 |
| 発行年月日 | 西暦　2000年03月 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>度分秒 | 東経<br>度分秒 | 調査期間 | 調査面積<br>m² | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 南原（みなみはら） | 長野県諏訪郡原村南原（ながのけんすわぐんはらむらみなみはら） | 3637 | 96 | 35度<br>56分<br>01秒 | 138度<br>14分<br>00秒 | 19991021<br>～<br>20000107 | 6,184 | 平成11年度県営担い手育成基盤整備事業深山地区 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 南原 | | 縄文時代 | 小竪穴　4基<br>集石　5基 | 早期・前期・後期土器<br>スクレイパー | 縄文時代前期の遺物を伴う小竪穴の発見は、当地方における縄文時代前期研究上の好資料である。 |




原村の埋蔵文化財53

**南　原　遺　跡**（第２次発掘調査）

平成11年度県営担い手育成基盤整備事業
深山地区に先立つ緊急発掘調査報告書

発行日　平成12年３月

発　行　原村教育委員会
〒391-0192 長野県諏訪郡原村
TEL 0266-79-2111

印　刷　もえぎ企画書籍
〒394-0043 岡谷市御倉町2-21
TEL 0266-22-4892